広報伊方町

発行所 愛媛県西宇和郡 伊方町
編集 伊方町町民室
印刷所 尾上印刷所 (八幡浜市天神通 電話 ③0091番)

衆議院議員選挙

投票日は 12月27日

第三十二回衆議院議員選挙は、七日公示されました。

戦後十一回目新憲法のもとでは、九回目の選挙であります。今回は、七〇年代のわが国の進路の選択を求める大きな転機であり、安保、沖縄返還とこれに続く今後の政治体制をつくる重要な意義を含んでいます。

わたくしたちは、この大切な選挙にのぞんで明るい町づくり、国づくりのために、明るく正しい選挙を行ない真に立派な人物をわたくしたちの代表に選びたいものです。

投票時間 朝七時から夕方六時まで

投票はいうまでもなく、投票日に仕事をもっていたり、投票日当日会社の出張、病気、旅行などのやむを得ない理由で、投票所に行にそれぞれの投票所へでかけて自分でするのが原則です。

投票所で投票できるのは、朝七時からタ方六時までに、きまって投票できない人もいます。

時からタ方六時までに、きまっていますからこの時間以外には、投票はできません。

そこで、こういう人たちの一票がムザムザ捨てられることのないようにが有権者の中には、町外ところが有権者の中には、町外不在者投票の制度です。

旅行する人などには 不在者投票

不在者投票は、つぎのような場合にすることができます。

一、有権者が、他の市町村で職務または業務に従事している場合

二、有権者が、やむを得ない用務や事故のために、他の市町村に旅行しているかまたは、滞在している場合。

三、病気やケガで投票所へ行けない人。

病院や国立保養所などに入院中のもの。↓

↓指定病院は、八幡浜市、西宇和郡では、市立八幡浜総合病院、三瀬病院、広瀬病院の三つです

三、姙娠していて、投票日が出産の予定日で、投票所へ行くことができなくなるかもしれない人

代理投票

有権者は、投票所で自ら投票用紙に候補者の氏名を記載して投票するのが建前ですが、身体の故障のため自分で記載することができない人、あるいは、字が書けない人は、投票所で投票管理者に申し出て、本人に代って候補者の氏名を書いてもらい投票することができます。

これが代理投票の制度です。

この場合、投票管理者は、投票立会人の意見を聞いて投票を補助する者二人を定め、そのうち一人に選挙人が指示する候補者の氏名を投票用紙に記載させ、他の一人が、これに立ち合わせます。

このような代理投票においても投票の秘密は、絶対に守られますので身体の故障または、字が書けない人は安心してこの制度を利用できることになっています。

無効投票

投票が有効であるか、無効であるかは、開票管理者が開票立会人の意見を聞いて決定します。

投票が無効とされるときは、次のような場合です。

一、投票所で交付された投票用紙を用いないもの。

二、候補者でない者の氏名を書いたもの。

三、二人以上の候補者の氏名を書いたもの。

四、候補者の氏名のほかに他事を書いたもの。

五、候補者の氏名を白書しないもの。

六、候補者の何人を記載したかを確認し難いもの。

赤は＝衆院・黒が＝国審

衆議院の総選挙には、最高裁判所裁判官の国民審査が一緒におこなわれます。

この国民審査は憲法できめられています。

両方の投票用紙を一緒に渡すことになりますがそこで気をつけてもらいたいのは、赤色で印刷しているのが衆議院選の投票、黒色で印刷しているのが国民審査の投票用紙です。

これを、とりちがえるとせっかくの投票が無効になりますから充分注意して下さい。

選挙人名簿投票区別部落別登載者調 (昭和四十四年十二月六日現在)

投票区	有権者数 男	女	計	部落別調	有権者数 男	女	計
第1	494	653	1,147	湊浦	245	318	563
				湊浦	29	39	68
				仁田之浜	132	181	313
				小中浦	88	115	203
第2	340	372	712	大中浜	230	261	491
				之浜	110	111	221
第3	140	186	326	河内	140	186	326
第4	120	135	255	伊方越	56	67	123
				亀浦	64	68	132
第5	407	495	902.	永田一	228	278	506
				永田二	68	84	152
				川中浦	111	133	244
第6	275	315	590	豊之浦	275	315	590
小計	1,776	2,156	3,932		1,776	2,156	3,932
第7	570	670	1,240	奥	94	104	198
				向	117	123	240
				畑	109	126	235
				須賀	109	129	238
				久保	65	91	156
				西	76	97	173
第8	56	77	133	二見	56	77	133
第9	227	290	517	加周	63	86	149
				田浦	112	136	248
				古之敷	52	68	120
第10	62	77	139	大成	62	77	139
第11	65	74	139	鳥津	65	74	139
小計	980	1,188	2,168		980	1,188	2,168
合計	2,756	3,344	6,100		2,756	3,344	6,100

交通災害共済加入者のみなさんへ!

本年四月より発足した交通災害共済加入者は、一、九五八人に達しています。

この制度は災害を受けたときお互いに助けあうためにできています。

事故にあったときは、役場町民室まで連絡ください。

交通事故災害とは日本国内で、汽車、電車、モノレール、航空機、船舶、トロリーバス、自動車、原動機付自転車、自転車、荷車などの交通により事故が起り、死亡したり、けがをしたりすることです。

災害見舞金はつぎのとおりです。

等級	災害の程度	見舞金額
一	死亡	五十万円
二	一八〇日以上の傷害	十万円
三	九十日以上の傷害	五万円
四	三十日以上九十日未満の傷害	二万円
五	七日以上三十日未満の傷害	五千円

年末年始の交通事故防止運動 44年12月1日—45年1月31日

○事故を 呼ぶ 酒は 飲むまい 飲ますまい ○待ちましょう くるまの ながれが きれるまで

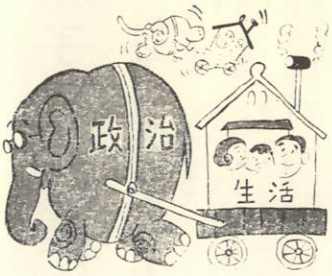
○ゆずり合う 心一つで 事故は ゼロ

○道路では あそぶな かけるな とび出すな ○あげた手に 笑顔の合図で 待つゆとり

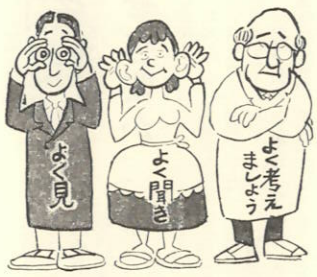
〜〜 交通犯罪県民総点検運動実施中 〜〜

▷ 悪質な交通違反を見た人は すぐ警察に通報しよう ◁

選挙まんが



わたくしたちの生活は、政治と密接な関係があり政治によって左右されます。



この政治を行なうのは。わたくしたちが自分で選挙した代表者です。立派な代表者を選びましょう。

義理や人情にとらわれず、お金や物の誘惑にまどわされないで、自分の自由な意志で選びましょう。

棄権は絶対にやめましょう。政治は国民全部のものですから選挙権のある人は、かならず投票しましょう。

選挙人名簿にのっていなければ投票できません。

投票用紙には、候補者一人の氏名をはっきり書きましょう。

原子力発電の知識

原子力発電はなぜ必要か

原子力発電が必要とされる大きな理由は四つあります。

その一つは化石燃料がやがて枯渇するということです。

現在使用しています石油、石炭などのいわゆる化石燃料をこのまま使っていきますと、近い将来には使い尽くしてしまうということです。

化石燃料はあと数十年から数百年で無くなってしまうだろうといわれていますが、これらの化石燃料のうち、石油は工業原料にも使用しなければなりませんので、発電用だけに使用するわけにはいきません。

そこで、どうしても化石燃料以外の燃料による発電が必要になります。

二番目の理由は、エネルギー供給源を多様化しておく必要があるということです。

わが国の電気事情は水力を主体として発展してきましたが、重油火力の経済性向上と水力開発地点の減少とが相まって、近年新規に着工される発電設備の大半は火力となっており、昭和四十一年度における電力供給の割合は火力が六ますますその比重は増加しています。しかしながら、石油資源に乏しいわが国では火力発電のほとんどが輸入重油を燃料としており、このまま推移すれば昭和六〇年頃にはわが国の電力源の八〇パーセント以上が輸入重油に頼らなければならなくなります。

ところが、このように多量の重油を輸入するとしますと、これを輸送する船舶や貯油設備の点で問題があるばかりでなく、石油業界が政変に大きく左右される実態から、電力供給安定の面で大きな不安が生ずることになります。

たとえば、スエズ動乱の際、英国に対石油の輸入が難かしくなったことがありました。

わが国でも何らかの事情で、海外からの石油の供給がとだえるようなことがありますと、たちまち電力が不足して経済が大混乱におちいる恐れがあります。

このように、わが国の将来を考えてみますと、従来の化石燃料に原子燃料を加えてエネルギー供給源を多様化しておく必要があります。

三番目の理由は、外貨の節約に役立つということです。

わが国では、火力発電がさかんになるにつれて、石油の輸入量が著しく増えています。そのため、現在は多額の外貨を石油供給国に支払っております。

一、原子力発電は燃料費が安く、その上ウラン二三五の一トンは石炭三百万トン、石油二三〇万トンにも相当する熱を出しますので、燃料が少量ですむため、輸送費等に要する費用が石油に比べ非常に少なくてすみます。

したがって、石油を輸入するのと比べますと、外貨の節約になりわが国の経済に貢献することになります。

四番目の理由は、原子力発電の開発により発電コストを安定させることができるということです。

発電コストは電気料金に関係し電気料はいろいろな製品の製造原価に関係します。

このように発電コストは産業や国民生活に深いつながりを持っておりますので、わが国の経済や国民生活を安定させるためには、発電コストを長期間安定させる必要があります。

ところで、原子力発電は発電コストの面で現在は火力発電に比べ多少高目ですが、近い将来には火力発電と競合できる程度ですので、発電コストを安定させるためにも、今後原子力発電を開発していくことが必要です。

原子力発電は火力発電とどこが違うか　また原子炉の構造はどうなっているか！

火力発電は石油や石炭を燃やして蒸気をつくります。

原子力発電は、原子炉で生じた熱を取り出すための冷却材（炭酸ガスまたは水などを使う）、核分裂反応をコントロールするための制御棒（カドミウム、ほう素、ハフニウムなどを使う）などで構成されています。

そして原子炉は原子燃料（ウラン燃料）を燃やして蒸気をつくり、その蒸気をタービンに吹きつけて発電機を回します。

このように、原子力発電と火力発電とは熱を発生させる個所が違うだけですので、原子力発電は火力発電のボイラーが原子炉に置きかわったものといえます。

なお、実際には原子力発電所には原子炉のほかに蒸気発生器や放射線遮蔽物処理施設などが設けられています。

原子炉の内部は、金属でおおった棒状の燃料、核分裂を起こしやすくするための減速材（黒鉛または水などを使う）、核分裂によって発生した熱を取り出すための冷却材（炭酸ガスまたは水などを使う）および核分裂反応をコントロールするための制御棒（カドミウム、ほう素、ハフニウムなどを使う）などで構成されています。

そして原子炉は原子燃料やコンクリートでつくられていて、その外側にある冷却材回路などと一緒に、これも厚い鋼鉄やコンクリートで気密につくられた格納容器ですっぽり包まれています。

原子炉と原子爆弾はどう違うか

原子炉と原子爆弾との大きな違いは三つあります。

一番目はウランの濃縮度の違いです。原子炉では天然ウランか低濃縮ウランを使用します。

天然ウランはウラン二三五とウラン二三八とからできていますが、このうち燃料として使えるウラン二三五はわずか〇・七パーセントで、残り九九・三パーセントは燃料として使えない（燃えない）ウラン二三八です。

原子炉ではこの天然ウランかまたはウラン二三五の含有率を二・三パーセント程度にした低濃縮ウランを使用しますので、原子炉が爆発することはありません。

一方、原子爆弾ではウラン二三五の含有率をほとんど一〇〇パーセントにした高濃縮ウランかまたは純度の高いプルトニウムを使用します。

二番目はじゃみの違いです。

原子炉では制御棒によって燃料を除々に燃やして燃料が持っているエネルギーをおだやかに取り出します。

一方、原子爆弾では燃料を瞬時に燃やして燃料が持っているエネルギーを爆発的に取り出します。原子爆弾では燃料を一個以上に分散しておき、爆発させたい時にそれを急に一個所に集中させるようにしており、そのために特別の工夫がこらされています。

三番目の違いは原子炉には自己制御性があるということです。

発電所では、原子炉内での核分裂反応の上昇に対して原子炉自身がこれを抑えるように設計していますので、核分裂反応が激しくなって原子炉内の温度がある程度以上になりますと、放っておいても核分裂反応は弱くなって炉内の温度はそれ以上には上がりません。

だから仮にありとあらゆる制御装置が働かなくなって原子炉が完全に無制御の状態になっても、原子炉が原子爆弾と同じように核爆発を起こすことは不可能です。

安全装置いつも正常に働くか！

原子力発電所では安全確保のために、起こることが考えられない事故までも想定して、それらの事故を未然に防止できるよう安全装置を考えていますが、これらの安全装置についても十分な検討を加え、いかなる場合にも安全が確保できるように設計しています。

その一つは、安全装置には誤った操作をしようとしても操作できないしかけや、仮に装置に故障が起こった場合には、安全装置は必ず安全側に作動するように設計していることです。

二番目は、重要と考えられる安全装置はその中の一つが故障してもなお安全が確保できるように、安全装置を二重三重に備えていることです。

たとえば、必要な時にはポンプや電源を二重に設置するとか、バルブを二つ設けておくとかいったように必ず多重しています。

三番目は、原子炉の重要な自動測定機器は機器の信頼性を高めるために、検出器や信号回路に特別な設計をしていることです。

たとえば、原子炉内部の中性子束の状態を正しく知ることは安全確保のうえで非常に重要なことですが、その状態を測定する装置である中性子束モニター（中性子束測定器）にはこの特別な設計をしていますので、中性子束モニターが伝える中性子の状態については高い信頼をおくことができます。

しかし、原子炉や燃料にはわずかながら余熱が残っていますので、このような事故の場合には非常用冷却装置が自動的に働き、原子炉内に水を注入し原子炉や燃料棒の余熱をさますようになっています。

また原子炉に対しては外側からも放水するようになっています。

さらに、原子力発電所では安全確保に万全を期するために、非常用水源、非常用水ポンプ、電源を別に用意してあり、仮にその一部が故障しても十分な冷却ができるようにしてあります。

原子炉の安全確保には……

具体的にどのような対策が講じられているか

原子炉の安全対策は個々の原子炉に応じてなされていますが、発電用として現在世界中で多数建設されている軽水型原子炉を例にとってのべてみましょう。

一、関係官庁による検査

発電所の建設前ならびに建設中、運転中でも関係官庁による厳格な検査が行なわれます。

二、地震対策

地盤の強固な所を選定し、さらに関東大震災の三倍ほどの地震にも耐えられるように十分な耐震設計が行なわれます。

三、使用材料の選定

特に、熱、放射線、腐食などに強い材料を選んで使用します。

四、放射線に対する防壁

㈠ 第一の壁はペレットと呼ばれる燃料の酸化ウラン棒自身です。

酸化ウランは燃料の燃えかすをしっかり抑えこんでおくような性質があります。

㈡ 第二の壁は高温や腐食に強い、ジルコニウム合金で作られている被覆管で、ペレットはこの被覆管の中に密封されています。

㈢ 第三の壁は厚い鋼鉄やコンクリートで作られている原子炉容器と呼ばれる冷却回路で燃料棒はこの原子炉容器の中に納められています。

㈣ 第四の壁はとても厚い鋼鉄やコンクリートで気密に作られているコンテナーと呼ばれる格納容器です。

原子炉はもちろんのこと発電所で放射能を多少でも持つ心配のある設備は全部このコンテナーの中に納められます。

なお、原子炉のまわりには厚さ約三メートルのコンクリートで作られたしゃへい壁を設けてあり、原子炉から出る放射線をしゃへいしています。

五、誤操作の防止

人為的な誤操作を防ぐために特別な装置が備えつけられていて、誤った操作をしようとしてもできないしかけになっています。

六、安全装置の多重性

安全装置の一つが働かなくなっても十分な安全確保ができるように、安全装置を二重三重に設けてあります。

七、原子炉緊急停止装置

原子炉に異常が生じた場合には、ただちに原子炉の運転が停止できる非常用原子炉停止装置を設けています。

八、非常用冷却装置

冷却材の通っているパイプが破断するような事故ではすべてのことは考えられないようなすが、そのような場合にも安全が確保できるよう、原子炉や燃料棒の余熱をさますために非常冷却装置を設けています。

九、放射線監視装置

放射線がもれていないことを確認するため必要個所に放射線監視装置を設けていて、たえず放射線を監視しています。

非常用冷却装置とはどんなものか……

原子力発電所において、冷却材の通っているパイプが破断するといった事故は起こるとは考えられないような事故ですが、この場合にも原子炉はただちに止まるようになっています。→

人

昭和44年10月末現在　世帯数　2,448戸　人口　9,637人（男 4,598人　女 5,039人）

婚姻

昭和44年10月1日～10月31日

出生

昭和44年10月1日～10月31日

死亡

昭和44年10月1日～10月31日